

晋州保健大学との交流報告

宮下 弘子¹・田代 隆良¹・浦田 秀子¹・中尾理恵子¹
 鶴崎 俊哉¹・田中 悟郎¹・中島 久良¹・松本 正¹

保健学研究 20(1): 103-110, 2007

(2007年9月19日受付)
 (2007年8月29日受理)

はじめに

本学と韓国晋州保健大学との交流は、平成7年(1995年)の短期大学部時代にはじまり、諸変遷を経て現在まで継続している。教員の共同研究と学生の交流を目的として、訪問と受け入れを交互に行ってきた。今回は、韓国晋州保健大学から学生15名と教員1名を受け入れ、3泊4日の交流を行ったので報告する。

1. 受け入れ態勢と受け入れまでの経過

昨年度、本学から訪韓しているのので、本年度は本学に受け入れる方向で先方に打診した。

5月29日(月) メールにて晋州保健大学チェ先生、大野先生に交流について打診した。

6月13日(火) チェ先生より、大学の意向として7月4日(火)から7月8日(土)で学生15名程度の案が提示された。教育研究委員長、学科長に報告し、検討の結果、7月6日(木)~7月9日(日)の代案を提示した。

6月15日(木) チェ先生より、本学案で問題なしとの回答があった。

6月19日(月) 教育研究委員会が窓口となり、本交流事業のプロジェクトチームを設置することとし、看護学専攻は各講座から1名ずつの教員に参画してもらった(田代隆良、浦田秀子、中尾理恵子、宮下弘子各教員)。

6月21日(水) 第1回プロジェクト会議を開催した。日程案、受け入れ学生募集、予算案等話し合った。各学年に受け入れ募集アンケートを配布し、4年にはメーリングリストで伝えた。ホスト不足時にそなえて、教員へもホスト打診を行った。

晋州保健大学には以下の内容を確認した。

博多-長崎間の移動手段(晋州側で用意してほしい旨)

引率教員の講演予定

施設見学の希望

学生の性別、所属学科

共同研究についての打ち合わせ

あわせて、受け入れ準備として、通訳の手配、見学施設の選定・打診、パーティ会場検討、ホスト確保、寄附金依頼(保健学科教職員、教育後援会、輔仁会等)、看護学専攻教員に期間中の都合照会等を行った。通訳は、

本学職員の坪井さん、職員の知人、韓国からの留学生に依頼し、交流期間中の通訳体制を整えた。

6月27日(火) 第2回プロジェクト会議を開催し、日程、役割案の検討を行った。

6月30日(金) 保健学科教職員に寄附依頼

7月4日(火) 看護学専攻教員に日程と役割一覧を送付

7月5日(水) 第3回プロジェクト会議を開催し、詳細の確認を行った。

7月6日(木)~7月9日(日) 交流

2. 受け入れ後の経過

7月10日(月) ホスト学生へのお礼と感想文の依頼を行った。また看護学助成金の申請をした。

7月14日(金) 大学病院、原爆ホーム、通訳沖本様、ホストファミリーにお礼状を送付した。

7月20日(木) 専攻会議で共同研究テーマを報告した。

7月25日(火) 総括のプロジェクト会議を開催した。

3. 交流の実際

1) 訪日日程と学生一覧

訪日日程と学生一覧は、表1、表2のとおりである。交流日程の決定から受け入れまでの期間が非常に短く、また講義期間中であったため、ホストの確保に難渋した。3泊の受け入れの都合のつかない学生は、友人達との連係プレーで受け入れ態勢をとってくれた。ホスト以外でも、歓迎会や施設見学、昼食の接待、観光等の場面で多くの学生が関わってくれた。今後は交流日程をできるだけ早く決定することが望まれる。

2) 交流の実際

第1日目は、一行が保健学科に到着後、ただちに会議室にて歓迎式を行った。玄関前での記念撮影ののち、引率教員であるイ・ウンニョン助教授による特別講演「韓国の看護、過去・現在・未来」を聴講した。韓国における看護の歴史、看護教育、看護実践、看護研究、新しい看護の潮流についてと盛りだくさんの内容を大変わかりやすいスライドとともに講演いただいた。看護研究については、ご自身の研究テーマである「韓国にお

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻

活動報告

表1. 学生交流日程表

7月6日(木)	5:30	晋州保健大学前集合	釜山へ出発
	7:00		釜山到着
	8:40		出発
	11:40		博多港着, 入国手続き
	12:30		長崎へ出発(貸し切りバス)
	14:30		長崎大学医学部保健学科到着 歓迎式
	16:20		講演会
7月7日(金)	9:00		オリエンテーション
	10:30		恵の丘長崎原爆ホーム見学
	13:30		長崎大学医学部・歯学部附属病院 見学
	15:00		浦上周辺散策 ホームステイ
7月8日(土)	18:00		研究打ち合わせ
	10:00		長崎市内観光
	18:00		フェアウェルパーティ ホームステイ
7月9日(日)	10:00		送別式
	11:00		福岡へ出発(貸し切りバス)
	13:00		博多港到着
	14:30		釜山へ出発
	17:25		釜山到着, 入国手続き
	18:20		晋州へ移動
	19:50		晋州保健大学前到着, 解散

表2. ホームステイ学生とホスト学生

訪問学生	ホスト学生
看護科1年	看護1年
パク キョンジン	田村 和子
パク ソヒェン	田村 和子
シン ヒェンア	増田ひかり
ソン ガヨン	作業1年
ジョン サンミ	小田 知世
看護科2年	看護2年
キム ジヨン	松本 佳奈
ジョン ファキョン	瀧本 知佳
ジョン ヒョンファ	大石 有美
カン ジュン	看護3年
カン ボキョン	井上 美和
イ ヨンハ	成沢 優子
看護科1年	看護4年
ジャン ジンヒェグ	西原小百合
看護科2年	高田 篤
看護科3年	園田久美子
チェ テヨン	田頭有希子
ジョン ウンジュ	田頭有希子
ヤン スジン	

ホームステイ学生 15名 ホスト学生 13名
引率教員 1名(イ ウンニョン助教授)

ける思春期の喫煙におよぼす仲間や家族の影響について」も紹介された。その後、医学部生協に場所を移して歓迎パーティを行い、そこでホストと対面した。今回の訪日学生のなかには、日本語が流ちょうな学生もあり、あっという間にうち解け、楽しい時間を過ごすことができた。

第2日目の午前には恵の丘原爆ホームの見学を行った。被曝高齢者の方々の生活する施設を見学対象とすることにとまどいもあったが、学生たちはまっすぐな視線で受けとめてくれたようである。見学受け入れを快く了解してくださった施設の方々にも感謝申し上げたい。午後は大学病院の見学を行った。看護部長の挨拶に続き、WOC看護、ターミナルケア、糖尿病の3領域の認定看護師による看護役割の紹介があり、活発な質疑応答があった。その後、2グループに分かれ、2階産婦人科病棟と3階小児科病棟の見学をさせていただいた。小休止のあと、原爆資料館、永井記念館、浦上天主堂など災天下で浦上周辺の散策を行い、夕刻ホスト学生と合流し、解散した。

第3日目は、午前中に大浦天主堂、グラバー園の観光、昼食をはさんで午後は自由行動とした。この日も災天下であった。ホスト学生だけでなく友人学生も参加し、交流を楽しんでくれたようである。夕刻はフェアウェルパーティを開催したが、とても和やかなパーティであった。

あっという間にむかえた最終日、送別式を終え、博多に向かうバスを見送る保健学科の学生たちも、帰途につく晋州の学生たちも、別れがたいようで、涙でいつまでも名残を惜しんでいた。晋州の学生たちは、博多到着後、船で釜山に向かい、その後さらにバスで移動し、晋州に到着したのは夜遅くであったようである。

3) 共同研究打ち合わせ

交流2日目の夕方から引率教員のイ助教授と学科長室において共同研究の打ち合わせを行った。両大学から提出された共同研究テーマは表3のとおりである。本学から提示したテーマについては、提案者である辻講師、中尾理恵子講師から概要の説明があり、晋州から提示されたテーマについてイ助教授から説明があった。その後熱心な質疑が行われ、それぞれが持ち帰り、各大学でテーマ紹介をして共同研究の希望を募ることとなった。現在、中尾理恵子講師のテーマが共同研究進行中である。

4. 収支報告

このような交流に対して公的な資金源がないため、毎回、教職員や教育後援会、輔仁会等の寄附に頼っているのが現状である。今回も多大なるご協力をいただいたことに感謝申し上げたい。収支報告は表4のとおりである。

5. 総括および感想

毎回交流が行われるたびに、準備期間の短さ、交流時期の問題がとりあげられるが、なかなか解決策が見あたらない。今回も同様であったが、関係諸氏、関連諸機関の多大なご協力で有効な交流が実施できたことに感謝申し上げます。

活動報告

表 3 . 共同研究希望テーマ

研究テーマ	担当研究者
長崎大学より	
1 . 日本と韓国の看護学生の清潔概念の比較 2 . 大学生あるいは看護学生の喫煙の日本と韓国の比較	辻 慶子, 濱野香苗 中尾理恵子
晋州保健大学より	
1 . A Study of the Critical Thinking Disposition and Clinical Competency of Nursing Student 2 . Academic stress and Gastrointestinal symptoms in College Student	Cho Hak Soon Eunyoung Lee

表 4 . 収支報告

支出		収入	
歓迎パーティ, フェアウェルパーティ	186,500	教育後援会	200,000
通訳謝金	65,000	教職員助成金	188,000
ホスト謝礼	75,000	輔仁会	100,000
入館料	22,020	看護学専攻	100,000
電車 1 日乗車券	20,000		
献花	3,150		
昼食代, 茶菓 (韓国学生)	81,105		
引率教員宿泊費等	81,348		
その他	17,000		
繰越金	36,877		
計	588,000	計	588,000

(単位は円)

今回は、ホスト学生のみならず、それ以外の学生もいろいろな場面がかかわりをもってくれ、和気藹々のうちに交流をすすめることができた。日本における韓流ブームと同時に韓国においても日本のテレビ番組がほぼ同時に放映されたり、インターネットによる情報の流通で、共通の話題も多かったようである。きっかけは娯楽であっても、それがより深い交流に発展するきっかけとなってくれれば幸いである。

6 . 本学学生の感想文

以下に今回の交流でホストを引き受けてくれた学生の感想文を掲載する。なお、文章表現は学生の記述そのままとしている。

韓国晋州保健大学留学生を迎えて

看護 1 年 田村 和子

韓国留学生の受入れを希望した理由

私は一度だけ韓国に旅行で訪れたことがあります。3泊4日という短い旅行でしたが、報道されているような日本に対して批判的な様子はなく、むしろ驚くほど日本語が話せる人が多いですし、ガイドを広げて道を確認していただいても声をかけて心配してくれるとても印象の良い国でした。

個人での交流で本当に人と人との繋がりができ、やがてそれが国同士の友好の源となりえると思います。小さ

なききっかけですがそれがどのように大きなものとなるのか、これから大学生の4年間で成長させていくのも楽しみになるのではと思い留学生受け入れを希望することとしました。

留学生を迎えて

初日：友人の家にて歓迎会。保健学科の生徒6名と留学生2名で数時間にわたっているいろいろな情報交換をしました。

2日目：学校行事後、長崎市街へ散策、買い物、食事。日本人3名で案内。

3日目：私は一日部活行事があったため私の友人が学校行事に参加。行事後は、お土産購入へ行き、その後稲佐山へ登ったとのこと。夜景を非常に喜んでいました。

最終日：見送りへ。

狭い部屋に2名の留学生を受入れすることになり相手がかたがたに思わないだろうかと少し心配にもなりました。受入れ希望の用紙を記入してから受入れ担当となるまで時間がかかり、受入れの週に知ることとなったため自分に他の予定が入ってしまったことも不安の一つでした。せっかくの来日ですし、出来るだけ多くの看護学生と交流もあって欲しいと思いましたが、看護専攻全体から希望者を募っての交流を企画する時間も無く、韓国語を多少でも学んでおく時間も無かったので、受入れまでの調整については改善する必要があると思います。私の場合、受入れの間は入門科目テーマ学習グループ班が非

常に協力してくれ、ウェルカムパーティから見送りまで手伝ってくれて非常に助かりました。

私が受け入れた留学生2名のうち1人は通訳が完璧に出来るほど日本語に精通しており、1人は日本語は全くわからない状態でしたので、自然と日本語を話せる留学生に皆が頼ってしまいました。しかし、どんな話でも出来るので非常に全員で話は盛り上がりました。初日はお互いに緊張している感がありましたが2日目、3日目と次第に慣れてゆき、最終日に至っては本当に「ともだち」としてお別れすることになったと思います。帰国後もメールでのやりとりもすぐに出来たのでこれからも少しずつ絆を深めていければと思います。

3泊4日という短い滞在で、旅行に来る感覚なのかなと思っていましたが、学校を訪問するだけでなく家に滞在するというので、一日を通してさまざまな話をすることができ、非常に中身の濃い滞在期間になったと思います。そして、同様に留学生も感じてもらえていれらうれしいです。今後も積極的に連絡を取り合い、一般的なことについても保健、看護の分野についても交流していければと思っています。

看護1年 増田ひかり

私が受け入れた韓国の留学生は、ヒョンアといいます。とても日本語が上手な女の子です。

1日目、初対面の日。2人とも照れて、初めはなかなか話せませんでした。しかし、お互いの学校生活のことなど、色々な話をしていくうちに、少しずつ、打ち解けていきました。ウェルカムパーティが終わった後、もっと仲良くなりたいと思い、小田さんと小田さんが受け入れた留学生の子と一緒に、他の友達も招いて、たこ焼きを作ってパーティーをしました。留学生の子達は、たこ焼きを食べるのは初めてだったらしく、珍しそうに食べていました。そのあと、花火をして、自宅に帰りました。

2日目。夕方、医学部まで迎えに行き、そのまま、西洋館の回転寿司に連れていきました。留学生の子達は回転寿司も珍しそうにしている、回っている寿司や、食べ終わった後の皿など、たくさん写真を撮っていました。そのあと、看護や作業療法の友達と一緒にポーリングに行き、仲を深めました。

3日目。この日は、1日中、一緒に観光したので、たくさん話することが出来ました。自由時間には、本屋に行きたいと言っていたので連れて行くと、漫画を沢山買っていました。日本の漫画は、韓国でも有名らしく、私よりもヒョンアのほうが日本の漫画について詳しくかったです。

4日目、お別れの日。とても短い間だったのに、ずっと一緒にいたような気がして、分かれるのがとても辛かったです。「この4日間を絶対忘れません。」と言われたときは、思わず涙してしまいました。来年は、私が韓国に行くことを誓いました。

今回、留学生を受け入れて、本当に良かったと思っています。4日間という、とても短い時間でしたが、たくさんの方のことを学び、たくさんの方の思い出を作ることが出来ました。私は、以前から韓国に興味があり、韓国の友達を作りたいと思っていました。だから、韓国の留学生のホスト募集の話聞いたとき、迷わず、受け入れたいと思いました。しかし、私は1人暮らしをしているので部屋も狭いし、料理も得意ではないのでご馳走してあげられないかもしれないと思い、受け入れるにあたって、少々心配でした。だから、精一杯楽しんで、たくさんの方の思い出を作って帰ってもらおうと思い、色々な計画を立てました。最終日に「4日間、とても楽しかった。」と言われたときは、受け入れて本当に良かったと思いました。私自身も、思っていた以上にとても楽しい4日間を過ごせたと、韓国の話も色々聞いて、本当に良い思い出になりました。来年は、私が韓国へ行って、もっと韓国について知りたいと思います。そして、またヒョンアに会うのを楽しみにしています。

ヒョンアをはじめ、韓国の留学生の皆さん、イ教授、保健学科の先生方、本当にありがとうございました。

韓国人との交流を通して

看護2年 松本 佳奈

「韓国からのホームステイを受け入れてほしい」と先生がおっしゃったとき、すぐに「受け入れてみたい」と思いました。帰宅してすぐに両親にそのことについて相談してみました。父も母も、韓流ドラマや韓流映画に夢中になっているし、私も大学に入学して以来、韓国の国技である『テコンドー』をやっているの、家族みんなで韓国人がホームステイにやってくるのを楽しみにしていました。

ホームステイ受け入れの初日は、「どうやってコミュニケーションをとろう」だとか「何を話そう」だとかいうことばかりを考えていました。しかし、私の家にホームステイすることになったジョン・サンミさんはすごく積極的な子だったので、とても安心しました。ただ、やはり言葉が通じないことがあって、そういう時、伝えたいことが伝わらないもどかしさをすごく感じました。きっと彼女も同じように感じただろうと思います。

2日目は、できるだけ韓国語を使ってコミュニケーションをとるように努力しました。私が韓国語で話しかけると、すごくうれしそうな顔で、優しく正しい発音を教えてくれました。韓国語が通じると私もすごくうれしくて「もっといろんな韓国語を知りたい、もっと韓国語で話したい」と思うようになり、常に韓国語の本を片手に行動するようになりました。夕食は私の両親が用意してくれたお寿司と皿うどんを食べました。サンミはすごくおいしそうに食べていたので、それを見ていた私も両親もすごく嬉しい気持ちになりました。

3日目。サンミはずっと今夜が最後の夜だといって悲

しそうな顔をしていました。彼女のその言葉を聞いたとき初めてその日が彼女と一緒に過せる最後の日だということを実感しました。だから日本での最高の思い出を作ってほしいと思い、ホストになった他の2年生の友達といろいろと考えました。「何か思い出になるものをプレゼントしよう」ということになって、韓国の子達にはばれないようにこっそりと、みんなおそろいのストラップを買いました。そして、お土産などの買い物を済ませたあと、みんなでプリクラを撮りました。みんなすごくいい笑顔をしていました。これらのプリクラは私の宝物です!!夕食のとき、こっそり買ったプレゼントを渡すとみんなすごく喜んでくれて、本当によかったなあと思いました。

4日目の朝は、サンミは悲しいといって口数が少なく、私も寂しさがこみ上げてきました。こんなにも4日間というのは短いものなのかと悲しくなりました。楽しい時間ほど過ぎるのが早いというのは本当だな、と感じました。サンミたちが帰ってしまうのは大変悲しいことでしたが、必ずまた会えると信じて、敢えて「ネイルマンナヨ(また明日)!!」といって彼女たちとお別れをしました。なので、必ず韓国を訪れて、彼女たちとまた楽しい時間を過ごしたいです。

今回ホストになって、先生方から「ありがとう」と言っていたいただきましたが、私はむしろこんなよい機会を与えてくれた先生方に感謝しています。カムサハムニダ!!

韓国学生との交流

看護2年 瀧本 知佳

今回初めて、韓国の方と交流することができたことは、とても良い経験になりました。

はじめは、私自身、韓国という国について、ほとんど知らず、ペ・ヨンジュン氏が人気ということくらいで、韓国語などもってのほか、かろうじて「カムサハムニダ」と「アニョハセヨ」とういくらいのものでした。お互い何を話せばよいか、どうやってコミュニケーションをとればよいか分からずに戸惑っていました。しかし、時間がたつにつれて、徐々に会話すると事ができました。そうすると辞書や身振り手振りで会話は弾み、言葉の壁をあまり感じなくなりました。四日間しかないということもあり、夜は、お互い色々なことを話したりして遅くまで話が途切れませんでした。

又、今回は、ジヨンだけでなく、ほかの韓国の方とも交流することができたこともとても嬉しかったです。私自身も行ったことなかったグラバー園や大浦天主堂と一緒に行き、みんなで暑いなかハートの石を探した事もとてもいい思い出になりました。韓国と日本の言葉や様々な文化の違いというものが驚かされ、嬉しかったです。二人で朝ご飯を食べるときにお箸とスプーンを使って食べることやそれをお皿のとなりに縦に置くことや、産まれた時が一歳になるということ、ほとんどの大学生が自分のブログを持っていることなど交流しなければ知ること

のできないことばかりでした。みんなで買い物をしてプリクラを撮ったときなどは、みんなで変な顔をしたり、面白いポーズをとったりして、みんなが一体になったように感じました。どこの国でもプリクラは人気のようで、改めてプリクラの偉大さも感じました。みんなで韓国映画のDVDをみる機会があり、その時も韓国と日本の笑いのつぼが違うと感じました。

日本では、話しながらゆっくり食べたり、歩いたりするのですが、『ご飯を食べるときは早く食べるんだよ。韓国人はせっかちだから』と聞き驚きました。またゆっくり話しながら歩いているときも『カジャ、カジャ』、行くよ、行くよ、と何度も言われ事が思い出されます。

今回の様々な経験が私自身を少し成長させてくれたように感じました。ジヨンを含め多くの韓国の方と交流し、国際交流の楽しさを感じることができたように思いました。来年は、私が韓国に行ってみたいと思いました。また、とても近い国なので個人的にも行ってみたいと思いました。

看護2年 大石 有美

私はこの三日間、韓国の学生との交流のなかで淡々と過ごしていた大学生生活に素晴らしい思いでが出来ました。

ホストを希望した最初の動機は積極的なものではありませんでした。先生にホストが足りないので協力してほしいと言われて、友達と協力し、では一人だけ、と引き受けることにしました。しかし韓国の学生たちと触れ合うなかで、その少しためらった気持ちはどこかへ飛んでいってしまいました。

はじめは会話が続かなかったり説明不足で意思疎通がよくできずまずいこともありましたが。しかしお互いやお互いの文化を知るうちにそれが大きな楽しみとなっていきました。学校では文化や言葉の違い、また共通の言葉を発見したりしたことを話し皆で驚いたりして、私たちホストだけでなく周りの人たちにも刺激になったように思います。ホスト同士も三日間協力し、時間と思いでを共有していくなかで今までより一層親しくなれました。1番心に残ったのは土曜日に韓国の学生とホスト皆で長崎観光した日のことでした。韓国の学生たちにとって初めての『変ガオ』プリクラも皆で撮りました。あの日は一日中歩いてくれたただただだけれど、次第に集団で協調していけるようになっていて、とても楽しく、長崎のこんな近場でまるで修学旅行生のようにしゃいである自分が信じられませんでした。そんな、互いのホストや韓国の学生たちと仲良くなってきた頃にお別れがきてとても残念に思いました。

最初は乗り気でなかったにしろ、今はホストをやった本当によかったと思います。『快便しましょう!』日本語堪能な私のパートナー、ファキョンが今回新たに覚えた日本語です。素晴らしい時間をくれました。来年も是非参加したいと思います。

韓国学生との交流を通して

看護2年 井上 美和

去年に引き続きまた、今年も参加させてもらいました。去年は、私たち長崎大学の学生が韓国に訪問してホームステイをして、交流をしました。去年はちょうど靖国神社参拝問題などで日韓関係がギクシャクしていたころでしたので、すごく楽しみな反面複雑な感情を抱いて訪問しましたが、晋州大学に到着すると、韓国の学生や先生方が熱烈歓迎で出迎えてくれて、その心配も一気にふきとんだことを覚えています。私は、韓国の方の温かいもてなしによってとても思い出に残る訪問をすることができました。このこともあって、韓国の方が日本に訪問するという報告を聞いてすぐに受け入れを決定しました。去年あれほどまでに一生懸命もてなしてくれたのだから、私も韓国の方が楽しんで一生思い出に残るような訪問になってもらえるようなホームステイをしてほしいと思いました。

私たちは、ホームステイの間授業も平常通りあったので平日の付き添いなどはできませんでしたが、夜には、稲佐山に行ったり、女神大橋に行ったり、朝は、日本料理をたくさん作ったり、休日には様々な長崎の名所に行くことができました。最終日の日には10人ほど集まって、朝まで飲み明かしました。たわいもないことや、日本と韓国と国は違っても同じ看護師を目指すものとしても夢や目標についてもいろいろな話をすることができ、とてもよい経験になりました。たったの4日間で、しかも異国の人とこれほどまでに親密になれる喜びをかみしめました。片言の英語であっても通じ合える力を私たち若者は持っていると感じました。

別れの時は、やはりさびしかったです。韓国の方が帰ってしまった後に、涙が出てきました。しかしまた、きっと会えるはずです。そのときには、もっと英語をしっかりと話せるようになって深く話しがしたいと思いました。このような機会を与えてくれる先生方や周りの方に感謝します。

ホームステイの感想文

看護3年 成沢 優子

韓国からの3泊4日の訪問が終わって、今はすごく楽しい思い出ができたという気持ちでいっぱい。私は、去年の夏に韓国にホームステイをさせてもらって、ホストやその家族をはじめ韓国の学生みんなにすごくよくしてもらった。初めての海外&ホームステイということもあって、最初は不安やどうなるのだろうという気持ちがあったが、韓国に着いてからはそんな気持ちも飛んでいくぐらい毎日充実していて、本当に楽しくて、あっという間に時間が過ぎていったという感じだった。今回の韓国の学生の受け入れは、その時の感謝の気持ちからでたものだった。私が韓国で素敵な思い出を作ることができたように、今度は韓国の人々に日本で心に残るような

思い出を作って欲しいと思った。

今、韓国の人々が訪問していた4日間を振り返ってみると、すごく短い期間ではあるけれど、密度の濃い時間だったなと感じる。1日目のウェルカムパーティの際は、お互いにまだ恥ずかしさや、緊張感もあり、会話もすごくタジタジであった。私自身も、ちゃんと持て成したいという気持ちで必死であったように思う。しかし、日にちを重ねていく毎に、つたない英語での会話ながらもお互いたくさんの話をして、一緒に過ごしているとずーと前からの友達のような感覚になっていった。そして最初はなかなか伝わらなかったことも、2日目・3日目と進むと、お互いなんとなく理解できるようになっていった。韓国と、日本で国は違うけれども、お互い一緒にいることが当たり前のような感じだったのかなと思う。私は最初、韓国の学生の人々に日本で楽しんでほしいという気持ちだったけれど、いつのまにか、自分自身が一番、はしゃいで、楽しんでいたように思う。そして韓国の人々も同じ気持ちでいてくれているといいなと感じる。

また、この4日間全体を通して、まずは率直にもっと英語を勉強したいと思った。今回は日常生活に必要な英語を必死で話していたという感じだった。しかし、せっかく同じ看護職を目指す他国の子と巡り会えたのだから、将来の夢だったり、自分の看護観なども語り合うことができたらずごく素敵だなと感じた。今度また、韓国の人々とも会う時までにはできるだけ英語力を身につけておきたいと思う。そして、今回は話すことができなかったもっと深い内容の話を語りあうことができたなと感じている。

また、今回韓国の子と触れ合ってみて、文化の違いや、考え方の違いなどを直に感じて、日本以外の国に住む人のことや、その国自体のことにもとても興味がわいた。自分の国の中の常識だけで物事を考えるのではなくて、世界を捉えることによって、大きな視野をもつことができるといいなと思う。

最後に、3泊4日という本当に短い期間での交流ではあったけれど、自分自身本当に楽しい時間を過ごせたこと、そして、いろんなことを考える機会になったことをすごく嬉しく感じている。これからも、ぜひこのようなチャンスがある時は参加していきたい。

韓国人ホームステイのホストになってよかったこと

看護3年 西原小百合

今回ホストになって本当によかったと思います。それは他の国の文化を教えてもらったり、同じ看護師についての夢を話して共感したり、相談が出来たりして海外の人との触れ合いプラス海外の看護について学ぶことが出来ました。

一番の問題はやはりコミュニケーションであり、共通語である英語を使っても発音がうまくないのでなかなか

伝わりにくいことがありました。しかし、非言語的コミュニケーションを使ったり、日本語を教えたり、韓国語を習ったりして言葉って何とかなるものなんだなあと思いました。

将来、英語が話せるようになりたいので自分の英語力のなさにも気づいたし、もっと勉強したいと思いました。そして、このような機会に参加してもっと海外の人と交流をもって、人生観や看護観を広げていきたいと思いません。

韓国人のホストファミリーになってみて感じたこと

看護3年 津下 愛

3泊4日のホームステイを受け入れるまでは、言葉は通じるだろうか、食事は作ってあげられるだろうか、日本の習慣は受け入れてもらえるだろうかといった心配が先に立っていた。しかし、実際、ペアとなる韓国人に会ってみて、その不安は一気に吹き飛んだ。ペアの相手は、笑顔が素敵な女の子であった。ありのままの自分の生活、日本の生活をペアの女の子に見せようと思って、普段の生活を心掛けた。国は違うけれど、やはり20歳代の女の子としてたくさん、共感できる部分もあった。しかし、4日間一緒に生活してみて、韓国人のホームステイを受け入れてみて、一番強烈に感じたことは、韓国人のみんなは向上心が強く、学習意欲がとても高いということである。この部分は見習わなければいけない部分だと思う。

この国際交流を機会に今まで、興味を持っていた国際交流・国際看護をいう分野にさらに興味を持つことができたとする。国際看護を行う上では、英語を話すことができなければ、通用しないということを実感した4日間であった。自分の言いたいことを母国語以外でも、きちんと相手に伝えることができなければ、国際という分野では活躍することができない。韓国人の子達から「あなたは将来どういう風になりたいの?」と聞かれた時に自分の将来のビジョンはしっかり持っているつもりだったのに、それを英語でうまく表現できないという壁にぶつかってしまった。言いたいことが言葉のせいであまり伝えられないという歯痒い思いをした。韓国人と過ごした4日間で、もっと学生のうちから国際国流を深めていきたいと思った。もちろん、世界各国の人々と触れ合うことで自分の価値観、看護に対する思いを再認識することはもちろんのこと、世界各国の現状を知っていきたく思うようになった。改めて自分の看護感や将来のビジョンについて考える機会になって本当に充実した4日間であった。

晋州の大学生と交流して

看護4年 園田久美子

私は日本以外の国の人と一緒に生活したことがなかったので、今回のホストの体験はとても緊張していました。韓国語はもちろん、英語もほとんど話せない私が、どう

やってコミュニケーションをとるか今思えば不安なことはたくさんあったと思います。しかし、そのようなことより、ただ「楽しそう」という簡単な理由で最初は引き受けました。実際に触れ合ってみると案の定、意思の疎通は難しく、最初の夜は通訳の方なしには話ができないことに気づきとても不安を感じました。そこで私たちは、身振り、手振りはもちろん筆談や電子辞書をお互いに駆使して会話するようになりました。もちろん時間は普通の何倍もかかるので、うまく伝わらなかつたりもどかしくもなります。しかし、日が経つにつれ、お互いのこともわかってくと明らかに意思の疎通ができるようになっていくことが手に取るように実感できるので、会話が楽しくて楽しくて仕方がなくなりました。最後の日には顔を見ながら話していると、テヨンさんが今にも日本語を話し出しそうな気さえ感じました。夜にはキムチの話を聞いたり、チマチョゴリの話や韓国の文化について外が明るくなるまで一晩中語りあったりもしました。

韓国と日本では食べ物も伝統的な衣装も、建物も違うのでその1つ1つに興味津々のテヨンさんはとてもかわいらしかったです。カラオケでお互いの言葉で歌を歌ったり、観光をしたり、夜景を見たり・・・その中でも特にテヨンさんが興味深そうだったのは着物を見せたときでした。やはり日本の独特の文化である着物は見たことがなかったようでうれしそうにみていました。実際に一緒に浴衣を着て出かけたときも写真を撮ったりしてうれしそう姿を見て、自分のほうがうれしくなり、ホストになって本当に良かったと思いました。

よく、言葉の壁は乗り越えられるといいますが、それをじかに体験した4日間でした。はじめは6畳1間の狭い家で、どんなおもてなしができるかと思っていましたが、そのようなことはあまり関係ないような気がします。一緒に歩いて、会話して、ただ一緒に過ごしているだけで十分だと思いました。私は、別に英検で良い級を持っているわけでも、海外旅行に行ったことがあるわけでもない、外国にはまったく縁のない人間でした。それでもこんなに韓国の学生との生活を楽しむことができました。今回ホストにならなかった人も、不安は多いかもしれないけど絶対やってよかったと思えるのでまた機会があればぜひ積極的に参加することをお勧めしたいと思います。

韓国学生との交流を通しての感想

看護4年 田頭有希子

韓国の学生と出会って初めに感じたことはスキンシップが多いということでした。私は人見知りをする性格で、初対面の人に対して壁を作るほうなのですが、今回は韓国の学生の積極的なアプローチで、壁を作りかけている途中ですでに壊されたような気がします。人見知りをする隙もありませんでした。初めは戸惑いましたが、おかげでいつもより臆することなく初対面の方たちと接する

活動報告

ことができたのではと思います。荒療治ではあったものの、私の人見知りを克服するきっかけを作ってくれたと今では思っております。

もうひとつ感じたことは、異国の文化というものは興味深いということです。私は今まで、「他の文化を尊重する」という言葉があまり好きではありませんでした。文化というものはその国の風土に合わせて生きていくために、自然に手を加えて人間が形成してきたものです。その国にはその国に合った文化というものがあります。それは長年の月日のなかで大切に作られてきたもので、身近すぎて気付いていないかもしれませんが、誰もが自分たちの文化を大切にしています。みんな心の中では自分の慣れ親しんだ文化が一番いいと思っているのに、他の文化を尊重するなんて、うわべだけで薄っぺらな言葉

だと思っていました。韓国の学生と接していると、やはり文化の違いというものを何度も目の当たりにしました。「何これ。理解できない。」と思うこともありました。しかし、いくら理解できないと思っても、4日間一緒に生活するわけですからそうも言ってられません。「理解できないけど、まあいいか」と考えるようにしました。他の文化圏で育った人と生活するためには、お互いに他の文化を許容することが大切なのかもしれません。それでも、許容できないこともありました。しかしよく考えてみると、その許容できなかったことは他の文化というより個人の習慣によるもの。おそらく相手も同じように感じた部分があったことでしょう。いろいろ言ったところで、所詮は一人の人間同士の付き合いなのだと思ったりもした4日間でした。